

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2657 号	氏名	小林 梢
論文審査担当者	主査 土岐 彰 教授 副査 高木 康 教授 副査 関沢 明彦 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>早産低出生体重児ではNICU入院中の成長は精神運動発達と密接な関連がある。そのため、生後早期から適切に成長評価を行うことが重要である。本論文では、在胎期間別出生時体格標準値から算出したSDスコア (SDS) を用いて、在胎28週以下のAppropriate for gestational age児の生後の発育パターンが検討された。対象を在胎25週以下、及び26, 27, 28週の4群に分け生後の身体測定値のSDSの推移を修正40週まで評価し、以下の結果が得られた。①4群ともに体重、身長、頭囲のSDSは一旦減少し、修正30週あたりで最低値となり、その後増加に転じていた。②在胎が未熟であるほどSDS最低値と修正40週のSDSは低値であった。③各在胎群間にはSDS増加量には有意差を認めなかった。以上より、特に未熟な児の入院中の成長改善には、生後早期のSDS減少を最小限とし、増加に転じるまでの期間を短縮することが必要であることが示唆された。また、SDスコアを用いることは日常診療における成長評価の指標として有用であると考えられる。</p> <p>この検討により、SD スコアによる早産低出生体重児の成長評価の意義が明確にされた。以上より、本研究は学術上価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：早産低出生体重児における NICU 入院中の身体測定値 SD スコアの推移に関する検討</p> <p>掲載雑誌名：日本未熟児新生児学会雑誌 (第 27 巻 1 号 2015 年掲載予定)</p>			

(主査が記載、500 字以内)